

令和6年度京都府立大江高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 実施段階 ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<div data-bbox="136 260 624 639" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">スクールミッション</p> <p>実践的・体験的な学習を重視し、柔軟な教育を行う地域創生科を設置する高校として、各系統における体系的な学習によって、知識や技能を身に付け、多様な人々と協働する姿勢を育み、地域創生に貢献できる人材を育成する。</p> </div> <p>スクールミッションを果たすため、生徒の、知・情・意・体の調和のとれた発達を図る。</p> <p>1 確かな学力【知】 知識や技能の基礎基本の定着を図り、自ら学ぶ意欲と課題解決能力を育てる。</p> <p>2 豊かな心【情】 徳性を高め、豊かな感性や情操を培うとともに、ボランティア精神を養う。</p> <p>3 強い意志【意】 自らの進路や新しい社会を切り拓く強い意志とチャレンジ精神を養う。</p> <p>4 頑健な身体【体】 自他の生命を大切にし、健康でたくましく生きる体力を育む。</p>	<p>1 成果</p> <p>(1) 進路希望の実現に向けて系統的・計画的な進路指導を行い、第一希望の進路実現、また16年連続となる就職内定率100%を達成した。</p> <p>(2) 地元企業や地域団体と協働で調査研究や実習を行うなど、各系統などでの特色ある取組を数多く行うことができた。</p> <p>(3) 個々の生徒に応じてきめ細やかな指導を継続し、安心して過ごせる学校環境を維持することができた。</p> <p>(4) 学校施設・設備に関する課題を整理し、空調設備の更新やWi-Fiの増設、トイレの洋式化、不要物の廃棄等の環境整備、改善を行った。</p> <p>(5) 会議資料や職員間の連絡のデジタル化、ペーパーレス化を推進し、働き方改革を進めることができた。</p> <p>2 課題</p> <p>(1) オープンスクール等の説明会の参加者数が増加し、一定の志願者があったが、定員の充足には至っていない。ホームページの更新、報道機関による広報等をタイミングよく充実したものとしていきたい。</p> <p>(2) 地域創生科6系統の特色ある取組を継続するとともに、取組内容・成果を点検し、体系的でさらに魅力ある取組へと、工夫・改善を進めていきたい。</p> <p>(3) スクールミッションの実現のため、ねらいを持った教育活動と評価をもとにした工夫・改善を継続していきたい。</p> <p>(4) 全校生徒に1人1台学習用端末がそろそろ。生徒の主体的な活用が求められるため、ICT活用授業の研究や研修を継続するとともに、モラル教育を一層推進し、校内のネットワーク環境、Wi-Fi環境の整備を進めていきたい。</p>	<p>1 教職員が磨いた「気づく力」で生徒理解を進め、特別支援教育の視点と人権尊重を基盤とした生徒の指導を通して、自己有用感や自尊感情を育むとともに、人権感覚の涵養に取り組む。</p> <p>2 コロナ後の「地域創生科」の教育を、より魅力ある教育活動に再構築して体系的に実施し、豊富な知識技能を身に付けさせ、地域の資源を活用した本校ならではの教育の伝統を築いていく。</p> <p>3 キャリア教育を推進し、2年次のインターンシップをはじめ社会とつながるための学びを進め、多様な人々と協働する姿勢を育み、地域創生に貢献できる人材の育成に努める。</p> <p>4 全校生徒が持つ「生徒一人一台の学習用端末」の効果的な活用、利用環境の改善を進め、個別最適な学びと生徒の主体的・協働的な学びを推進する。</p> <p>5 生徒の多様な学びの場として教育的意義が大きい部活動やボランティア活動、委員会活動などの課外活動の活性化を図る。</p> <p>6 健康・安全教育、防災教育・環境教育、校内美化を推進し、安心・安全な教育環境を維持していく。</p> <p>7 働き方改革として、整理整頓等による職場環境の改善と業務の効率化を図る。また、教職員の、他の教職員や地域社会と「つながる力」をさらに強化し、組織的・協働的に諸課題に対応していく。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	魅力ある学校づくりの推進	地域の資源を活用した特色ある系統の取組を実施する。【授業評価アンケート「系統の取組を主体的に取り組んだと回答した割合80%以上】 各系統の特色ある教育活動の一層の充実を図るとともに、校内外に広く発信する。【ホームページの更新回数週5回】	B	「地域とつながる」をテーマに各系統の特色ある取組を実施し、校内外の成果発表会で取組成果を共有した。各種取組について、新聞報道各社に取材してもらう等、広報の充実に努めた。 校内の各種会議資料をデータで共有し、ペーパーレス化を図った。また、マイホームデーの周知を図り、早めの退勤を推奨する等、業務改善の推進を図った。 【授業評価アンケート95.2%】 【ホームページの更新回数2.9回/週5回】
	働き方改革の推進	整理整頓の徹底、ペーパーレス化(OneDriveの活用推進)、会議の効率化を進める。【調査中のノー会議】 環境や業務改善を推進し、長時間勤務教職員の時間外勤務時間の削減に取り組む。【月1回のノー残業デー(マイホームデー)】	A	
教務部	授業力向上	多様な生徒の実態に応じた個別最適な学びにより基礎学力の定着を図るとともに、協働的な学びを推進する。 【生徒がICTを活用する場面を取り入れた授業を展開できている教員の割合が80%以上】	A	1学期当初にポケットWi-Fi、iPad、インタフェース等が整備され、昨年度よりもICTを活用するための環境が整ったといえる。 2学期には公開授業を実施し、多様な生徒の実態に応じた授業を公開した。また、参観することで授業力の向上を図ることができた。 【生徒がICTを活用する場面を取り入れた授業を展開できている教員91.3%】 広報については、公式ホームページやインスタグラムを活用して本校の活動を発信した。また、オープンスクールや進学相談会など本校を知る機会を設け、志願者増に努めたが、志願者数の増加にはつながらなかった。
	効果的な広報の推進による志願者増	学校説明会やオープンスクール、公式HP等を通して、本校の魅力を中学生、保護者へ積極的にPRし、志願者の増加を図る。 【前期選抜における募集定員に対する志願者の割合が70%以上】	C	
事務部	生徒・教職員が安心・安全な学校生活を送れる環境づくり	短期経営目標に基づき、危険箇所等に対する迅速かつ適切な施設管理を行い、日々の美化清掃、整理整頓で教育環境の構築を図る。 【教育環境改善への充足度80%以上】	A	日々の美化清掃、グラウンド整備により教育環境の維持に努めた。また、破損箇所の応急措置、業者による修復も速やかに行った。テニスコート法面復旧工事も年度内に休日も立ち会って実施し、危険箇所の解消及び不要物の処分にも努めた。 エアコン暖房により防火管理・燃料運搬等業務軽減が図れた。HR棟カーテン、視聴覚機器の更新は早期に行い、教科分掌予算は可能な範囲で充足できた。 教員用コンピュータの充足に努めたが、予算の都合上無線LANの拡充は一部にとどまった。
	組織的な学校運営	学年や分掌と連携し、学校課題の解決に向けた校内運営に参画し教育内容充実のために適切な予算の計画的効果的な執行を図る。 【教科・分掌予算の要望に対する充足度80%以上】	B	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
第1学年部	基本的な生活習慣の確立	保護者との連絡を密に行い、遅刻・欠席の防止に努める。 挨拶の励行と規律、マナーを身につけさせる。 教室内の環境整備に努める。  【遅刻指導年間3人以内】	B B	担任と家庭が緊密に連絡を取り合い、生徒の変化に素早く対応できた。教室内の環境整備に尽力し、年間を通して良好な状態を維持できた。基本的な生活習慣や身だしなみ指導を行ったが、一部の生徒の指導に苦慮した。 また、徐々に授業の欠席が増え、授業中の集中度、学習意識の高揚や家庭学習の定着が課題である。
	進路意識の醸成と学習習慣の形成	進路に対する目的意識を持たせる。 日々の授業を大切にさせるとともに、家庭学習の習慣をつけさせる。  【評定平均3.2以上70%】	A	進路の意識を高めると共に、特別講座への参加をさらに促す必要がある。
第2学年部	「気づく力」を大切にした生徒理解と、生徒の実態に即した指導・支援	生徒の発言や行動、生徒間の関わりあい等に注目し、小さな変化を見逃さず、日々の生徒への指導や支援を行う。また、家庭や関係機関、校内の分掌と適宜連携し、生徒の指導・支援に生かす。  【学校評価アンケートにおいて、「生徒に信頼される指導、困り事や悩み事への対応や適切な生徒支援ができている」の学年平均70%以上】	A	家庭や関係分掌等と連携を図りながら、指導や支援を行った。一部の生徒に服装の乱れが見られ、適宜指導を行った。三者面談や進路学習等において、進路希望の具体化を目指す指導を行った。今後、3年次の進路目標の決定に繋げるよう指導と支援を継続する。
	卒業後の進路実現を目指した進路指導	個人面談等の生徒と話し合う機会に、生徒が自らの進路に対して考えるよう動機づけるとともに意識の醸成を図る。また、インターンシップや上級生による進路講話、進学講習等の具体的な取組を通して、生徒に、具体的な希望進路を模索させる。  【インターンシップの満足度70%以上】	A A	「先生方は、困り事や悩み事の相談にいただける存在である」は『だいたい当てはまる』と『当てはまる』の合計が90.3%、「生徒を大切に、親切で信頼のできる生徒指導が行われている」は、『だいたい当てはまる』と『当てはまる』の合計が85.4%であった。 「インターンシップの満足度」は、『とても満足』49.0%、『満足』36.7%で合計85.7%であった。
第3学年部	希望進路の実現	進路指導部・教科・保護者等との連携を図り進路指導を組織的に行う。 学年目標の「希望進路実現のために日々努力をする」を実践させる。  【欠席日数0日の生徒の割合 50%以上】	B	進路指導部・教科担当・保護者等と連携し、希望進路実現に向けての取組を進めることができた。進学講習、就職講習に積極的に参加する等、希望進路実現のために努力をする姿が見られたが、進路決定以降欠席をする生徒が増え、欠席日数0日50%以上の数値目標を達成できなかった。学校行事に自主的に取り組み、達成感を得させる等、成果を上げることができた。最高学年としてリーダーシップを発揮できた。
	学年目標の実践	学年目標の「最高学年としてリーダーシップを発揮する、自分の行動に責任を持つ」を常に意識した学校生活を送り、自分の可能性を広げるための努力をさせる。学校行事や部活動などで下級生を牽引し、達成感を感じさせる。  【学校行事「学校祭」における満足度 70%以上】	A A	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
保健部	教育相談機能の充実と特別支援教育の推進	<p>生徒や保護者等の困り感に寄り添い、ニーズや特性に応じた支援に繋がられるように教職員研修の充実に努める。</p> <p>特別支援教育コーディネーターが中核となって、実態把握や教職員間の情報を共有し、SCやSSW、関係機関と連携を図りながら生徒の将来を見据えた支援の充実に努める。</p> <p>【教職員研修を3回以上実施】</p>	B	<p>生徒理解と支援について知識を深め考えるために、SVによる教職員研修と特別支援教育に関する教職員研修を実施、また、教職員のメンタルヘルスをテーマにSCの教職員研修を実施した。</p> <p>アセスメントや指導計画の活用、生徒への支援について検討が十分にできていない。学年部と連携を図りながら、特別支援教育コーディネーターが中心になって、生徒の困り感に寄り添った支援を推進していく必要がある。</p> <p>保健学習は計画通りLHRで行い、まとめのプリントや保健だよりを毎月発行し、健康安全に関する情報を発信した。感染症の罹患者は出たが集団感染の兆しは見られなかった。再検査や治療が必要な生徒の指導が十分にできていない。受診の必要性について指導し、家庭とも連携を図りながら受診率の向上に繋げる必要がある。</p>
	自ら健康管理ができる生徒の育成	<p>保健指導や保健だより等を通して、健康安全に関する情報発信を行う。</p> <p>定期健康診断の結果、再検査や治療が必要な生徒の受診率が向上するよう、受診勧告や保健指導の充実に図る。</p> <p>感染症に対する正しい知識を持ち、感染予防の行動がとれるように、保健指導の充実に努める。</p> <p>【「保健だより」を月1回以上発行】</p>	B	
生徒指導部	社会人基礎力の習得 (校内美化・身だしなみの向上)	<p>すべての教育活動を通して個に応じた身だしなみ指導を行う。挨拶、言葉遣いなど社会人として必要なマナー向上を目指す。定期、不定期の点検及び生徒会が主体となった毎週の挨拶運動に加え【校内美化運動】「身だしなみ向上週間」等の新たな取組を2種類以上計画実施する。</p>	B	<p>服装、身だしなみ指導は個別に丁寧に行うことができた。生徒会は、生徒会考案主催で「今日は何の日」ボードの設置や啓発グッズを活用しての挨拶運動、新たにホームルーム清掃点検等を行い、新規取組の計画なども含め活発な活動ができた。</p> <p>インスタグラム等を活用し、部活動や生徒会活動の広報を現時点で16回配信した。生徒会ニュースは現時点で7回発行できている。部活動加入率は兼部の生徒が多く、兼部を含めると79%となるが、兼部を除くと加入率56%と低い結果となった。</p>
	生徒の活力向上	<p>校外外で部活動の活動状況(試合結果や活動写真などの広報・掲示)の広報を積極的に行う。</p> <p>【部活動の加入率70%以上(前年度60%)】</p>	B	
進路指導部	3年次生の希望進路の実現	<p>系統的かつ組織的に進路ホームルームやガイダンスを実施するとともに、学年部と連携し、個別指導等きめ細かい指導を行う。</p> <p>【3年次生の進路決定過程における進路指導に対する肯定的意見が80%以上】</p>	A	<p>3年次生については、ガイダンス、面談等、学年と連携し、きめ細かい指導を行った。ほとんどの生徒が第一希望での進路実現を達成した。2年次生は、教員全員体制でインターンシップを実施し、生徒の勤労観の育成など、一定の成果を得ることができた。</p> <p>1、2年次生に対して、計画に基づいて様々な進路行事を実施した。大まかな進路希望を持ってはいるものの、具体性に欠けている生徒が多く進路希望実現に向けて、模擬試験の積極的な受験や進学講習への参加など促す必要がある。</p>
	生徒が主体的に進路選択できる力の育成	<p>インターンシップを実施し、オープンキャンパスや企業説明会等への参加を促し、自ら積極的に考え、行動する力を身につけさせる。</p> <p>【1・2年次生の2学期後半の進路希望調査において、進路希望未定者30%以下】</p>	B	

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<p>○今年度も各系統の特色ある取組を通して探究活動を充実させた授業展開を実施した。例年、地域の施設で実施していた学習成果発表会について、今年度は本校視聴覚室で実施し、地域の方をお招きし探究の取組成果を参観いただいた。生徒自ら地域の課題を発見し、地域の協力を得ながら調査研究と分析を重ね、企画したことを実施、そして振り返って検証し、新たな課題を発見する。各系統の探究活動がよく分かる発表内容であった。さらに、地域との連携を強め、地域資源を活用した探究活動を継続させたい。</p> <p>○ICT活用授業の研究や研修を実施し、全校生徒が学習用端末を活用した授業展開を進めるとともに、モラル教育を一層推進し、さらに校内のネットワーク環境、Wi-Fi環境の整備を進めていきたい。</p> <p>○広報の充実に努めたが、一定の志願者があったが、定員の充足には至っていない。ホームページの更新、報道機関による広報等をタイミングよく充実したものとしていきたい。</p>
----------------------------------	--

<p>次年度に 向けた改善の 方向性</p>	<p>○スクールミッションを踏まえ、その実現に向けて教育内容の充実及び評価方法の工夫改善を行い、より質の高い学力の育成に向けて取り組む。</p> <p>○地域創生科における教育活動について成果を整理する。さらに、地域と連携した探究活動やICT活用授業を推進し特色ある取組を展開する。</p> <p>○募集定員の充足に向け、ホームページの更新や報道機関による広報等を通じた生徒募集を充実させる。</p>
--------------------------------	--